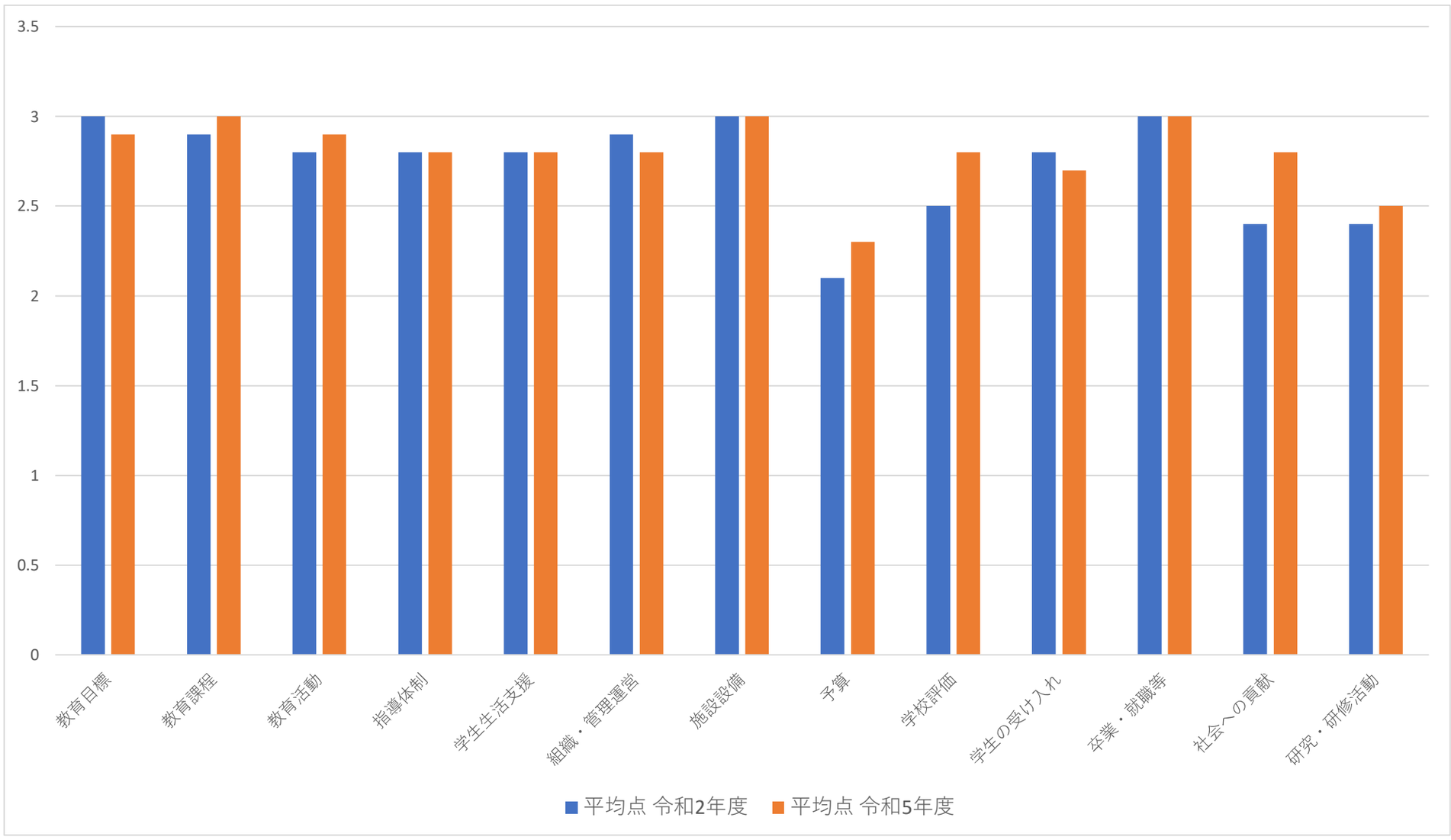
# 令和5年度　自己点検・自己評価における主な課題と取組

| | カテゴリ | 平均点 | | 評価の根拠と課題 | 取組内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 令和2年度 | 令和5年度 | | |
| 1 | 教育目標 | 3 | 2.9 | 第5次カリキュラム内容を実施しながら、抽出される課題の改善を図っているが、時代の変化に伴う学生の特徴に対する教育内容への対応が不足している現状がある。 | 第5次カリキュラムにおいて、西三河南部東医療圏で求められる看護師の育成ができるように、病院の特徴だけでなく、地域の人との関わりを増やしたカリキュラムを実施している。 |
| 2 | 教育課程 | 2.9 | 3 | 毎年度末にカリキュラム評価し、分析している。令和2年度より卒業時に全教員・全講師の授業評価している。 | 令和5年度卒業生からタブレット導入しており、メリット・デメリットをふまえカリキュラムと併せて評価していく。 |
| 3 | 教育活動 | 2.8 | 2.9 | コロナ禍ではWi-Fi環境を整え、リモート授業を導入しながら計画通りのカリキュラムが実施された。グループワークやモデル人形の演習、アクティブラーニングも活用している。 | 引き続き授業方略を精選しながら学習効果を向上させていく。 |
| 4 | 指導体制 | 2.8 | 2.8 | 実習施設の指導者とは定期的に情報交換し、学生のレディネスや傾向の共有、問題事例について協議し効果的な関わりに努めている。 | 実習ごとに学生のレディネスを共有する場を設けたり、日々情報交換をすることで教員・指導者間の指導方針のズレを解消するように努めていく。 |
| 5 | 学生生活支援 | 2.8 | 2.8 | 健康管理については特に窓口は指定せず、言いやすい教員に申し出るよう促している。課外活動・ボランティア活動等では担当教員が調整、助言している。 | 令和6年度より合理的配慮委員会・ハラスメント予防対策委員会を設置する。 |
| 6 | 組織・管理運営 | 2.9 | 2.8 | 日々の業務評価の機会が少ないため、職員の達成感が得られにくいことや、教員間の隔たりが生じていることがある。 | 委員会規程に則り、計画的な会議の開催、委員会運営がされている。 |
| 7 | 施設設備 | 3 | 3 | 学習環境の改善がはかれているため、教育の質を向上させるために検討している。 | Wi-Fi環境、teamsの導入が完了し、学生に不利益なくカリキュラムが遂行できている。図書は年度ごとに計画を立てて予算計上している。 |
| 8 | 予算 | 2.1 | 2.3 | 岡崎市の財政状況が厳しいため、本校の必要な予算を獲得しにくい。 | 事業内容を精査し、優先順位の高いものから予算計上している。 |
| 9 | 学校評価 | 2.5 | 2.8 | アンケート結果に対する分析が不足していることがあるため、分析方法の検討を図っていきたい。 | 積極的に授業や実習などのアンケートを実施し、改善に努めている。 |
| 10 | 学生の受け入れ | 2.8 | 2.7 | 少子化に伴い入学定員の確保が困難な状況にあり、令和２年度より指定校推薦入試に学校推薦入試制度を加えて定員の５から６割程度を募集枠とした。 | インスタグラムを随時更新し、ガイダンス等で活用しているが、さらに本校の強みをアピールしていく。 |
| 11 | 卒業・就職等 | 3 | 3 | 退学者数が入学者数の1割を超えることがあるため、学生の支援だけでなく看護を学ぶことの楽しさを感じることができるように、教員間の学習機会を増やし、現行の教育方法を改善して行く必要がある。また、西三河南部東医療圏への就職数を増加させるために、地域の実習場所や見学できる機会を増やしていく必要がある。 | 昨年度まで7年間連続100％合格している。合格率、進路、就職状況を分析し、毎年学生指導に活用している。 |
| 12 | 社会への貢献 | 2.4 | 2.8 | 授業の中で地域の人々と関わる機会を増やし、各学生が自ができることを見出していけるようにする。 | 学校祭では、地域の人々に看護に対する関心を喚起することを狙いとして、看護に関連する職業の方に講演を依頼し、講演会の内容を含め学生から好評を得ている。 |
| 13 | 研究・研修活動 | 2.4 | 2.5 | 臨床ナースとの共同研究はできていないが、定期的に臨床指導者との会議にて意見交換している。 | 臨床ナースにも活かすための研究に取り組んでいきたいと考えている。 |
| | 全体 | 35.4 | 36.3 | | |
| | 平均 | 2.7 | 2.8 | | |

評価結果

全体の点数は、前回の令和2年度と比較して0.9ポイント上昇、平均点は2.8%の達成度であった。

「教育課程」「教育活動」「施設設備」「予算」「学校評価」「社会への貢献」「研究・研修活動」が前回より上昇したカテゴリである。




評価結果の活用

　カリキュラム改正により、本校の教育理念に戻り、教育目標からカリキュラムを見直した。教育理念や教育目標を達成するために毎年カリキュラム評価を実施し、本校の課題に取り組んでいる。コロナ禍を機にWi-Fi環境の整備、タブレットの導入等、リモートに対応したことで、カリキュラムが問題なく遂行できている。今後は更にアクティブラーニングを進め、臨床判断能力の向上に努めていく。

　近隣の看護学校の閉校による影響はなく、入学生の確保が課題である。指定校推薦から学校推薦に変更し、入学生の確保および学力レベルの安定を目指している。